

# Exchange

Microsoft Exchange  
製品カタログ



# あらゆるデバイスから、どこからでも、 より安全に、よりスマートに

## 新しい Office と 生産性向上 ソリューションの プロダクティビティ ビジョン

クラウドや最新モバイル デバイスの普及、高速なネットワークの整備など、技術革新とともにワークスタイルは確実に変化しています。BCP (事業継続計画) 対策や在宅勤務など、場所を問わずに業務を継続できる環境を実現するには、いつでもどこでも、あらゆるデバイスから、快適に利用できる仕事環境が必要です。

新しい Office は、あらゆるデバイスで使いたれたアプリケーションを快適に操作できるよう、改善。リッチ クライアントに加え、ブラウザからもアクセス可能。それぞれがデバイスに合わせた最適なユーザー インターフェースを提供し、最新のタッチ エクスペリエンスに対応しています。生産性向上ソリューションは、クラウド、オンプレミス、ハイブリッドでの展開が可能。ユーザーは、これらを意識することなく、メッセージング、音声とビデオ、コンテンツ管理、エンタープライズ ソーシャル、レポートと分析など、統合されたマイクロソフト プラットフォームを活用できます。Microsoft Exchangeは、メッセージングの機能を中心に提供。オンプレミスは Exchange Server、オンラインは Exchange Online というブランド ネームです。当資料は、2012 年 12 月販売開始の Exchange Server 2013 と 2013 年第 1 四半期サービス開始の新しい Exchange Online をベースに記載されています。



統合された最高のソリューションを提供する、マイクロソフトの生産性ソリューション

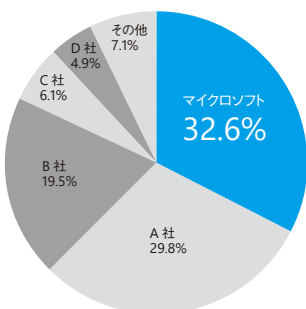
## 時代の最先端を行く Exchange

Exchange は、マイクロソフト生産性向上ソリューションのメッセージング基盤として、世界で多くのお客様に信頼されている製品です。

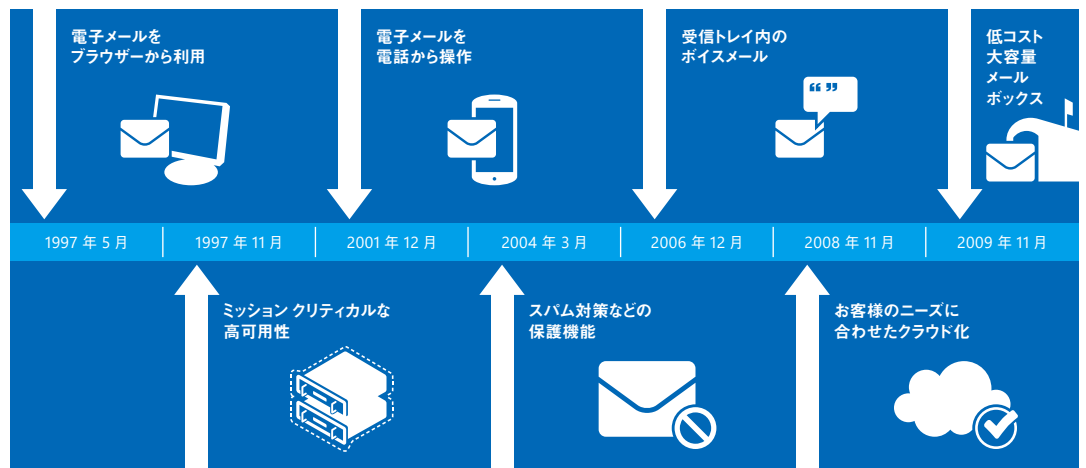
メールへのブラウザ アクセス環境は 1997 年から提供。メール サーバーの導入率が現在よりも低かった当時に、ハードウェアだけではなく、ソフトウェアによる高可用性も実現しています。モバイル デバイスからの安全なアクセスを提供する、Exchange ActiveSync は 2001 年から提供。現在では、マイクロソフト製品だけでなく、ほとんどのスマートフォンが Exchange ActiveSync に標準対応しています。

2004 年にはサーバー レベルでのスパム対策、2006 年にはボイスメールの統括管理、2008 年にはクラウド サービスの提供を開始。2010 年には、より大容量のメールボックスを使いたいというニーズに対応するため、I/O パフォーマンスを改善し、低コストでの大容量メールボックスを実現。まさに、時代のニーズをタイムリーに組み込み、他社製品と比べて、常に一歩先を歩んできたことが、多くのユーザーに愛されてきた理由です。

IDC 調査 国内 e メール アプリケーション市場における Exchange Server 2011年市場シェア (売上実績)



出典: IDC September/2012 国内コラボレーティブ/コンテンツアプリケーション市場 2011 年の分析と 2012 年 ~ 2016 年の予測 (#J12310108)

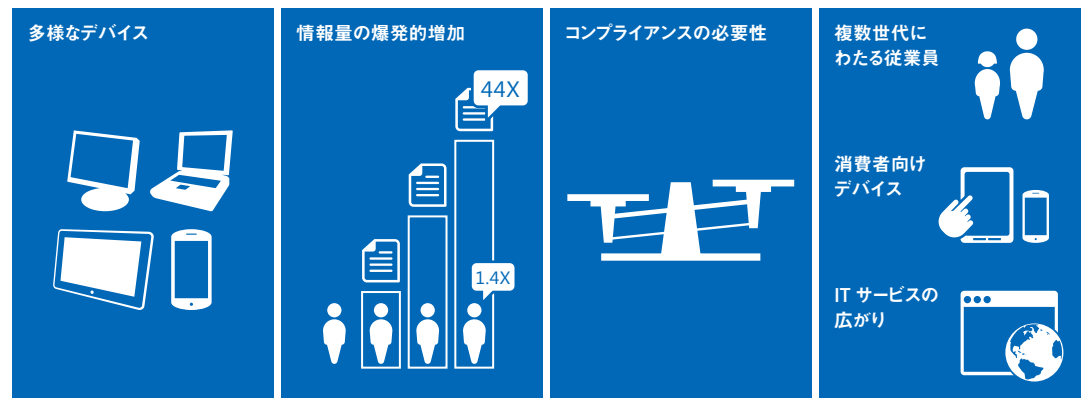


## コミュニケーションの 課題に直面する世界

スマートフォン、タブレット、ノート PC など、直感的で使いやすいモバイル デバイスの浸透と高速ネットワークの整備。最新端末をいとも簡単に使いこなすデジタル世代の台頭。BYOD (個人端末の業務利用) の増加など。IT の技術革新とともに、社員のワークスタイルもかつてないほどに変化しています。

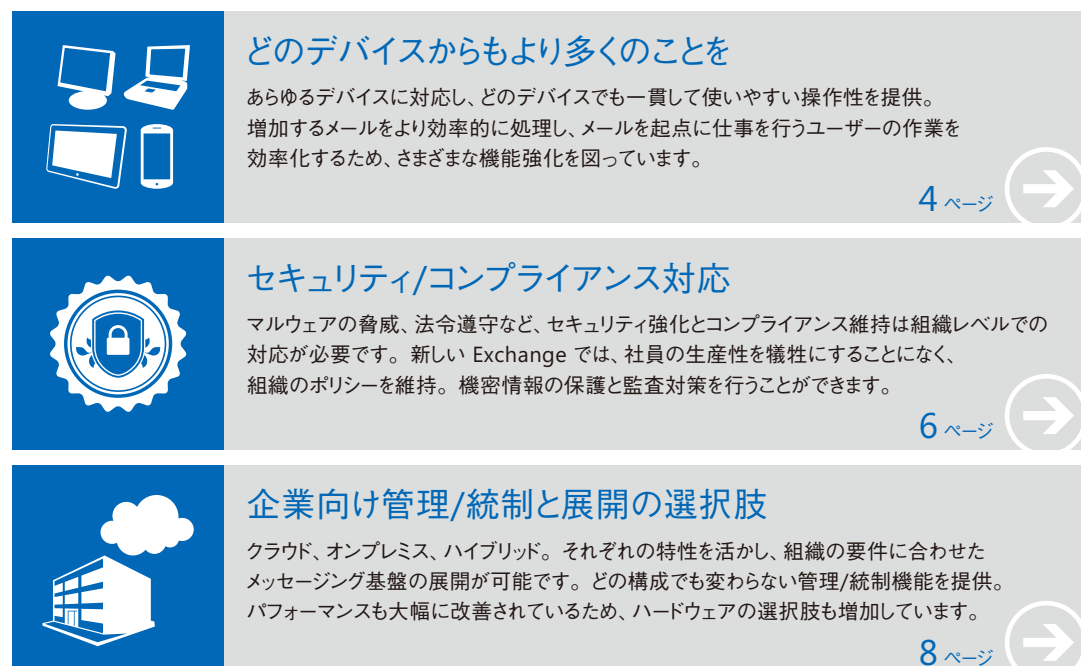
いつでもどこでもメールや共有ドキュメントにアクセスできる現在では、仕事とプライベートにおける時間や場所、デバイスの境界線はどんどん曖昧になり、情報量も爆発的増加。個人で使用されてきたソーシャルを仕事で活用するケースも増加する一方で、情報セキュリティやコンプライアンスに対する社会的意識もより向上しています。

このようなニーズも、視点を変えれば、組織の新しい武器になり得ます。社員が個人的に入手したナレッジとデバイスは、企業にとって有益な IT 資産。最も使い慣れたツールを使用し、いつでもどこでも業務を遂行できれば、生産性の向上と事業継続性の向上を現場から後押しできます。現場のニーズに柔軟に対応する、理想的な仕事環境の構築は、社員の自由な発想を損なうことなく、新しいビジネスチャンスに変わるのです。



## 新しい Exchange を 採用する 3つのメリット

このような時代にふさわしいメッセージング基盤として、新しい Exchange は大きく分けて 3 つの機能領域を大幅に改善。生産性と操作性の向上を図りながら、セキュリティとコンプライアンスを両立。現場のユーザーにも、組織の管理者にも納得いただける、最先端のメッセージング基盤を提供します。





# どのデバイスからもより多くのことを

## 直感的かつ魅力的なユーザー インターフェース

### 画面に最適化されたユーザー エクスペリエンス

Exchange なら、PCをはじめ、スマートフォンやタブレットなど、さまざまなデバイスからアクセスできます。標準的なスマートフォンやタブレット向けのオペレーティングシステムで Exchange ActiveSync が採用されているだけでなく、ブラウザーによる閲覧も可能です。

新しい Outlook Web App では、閲覧するデバイスの画面サイズに合わせて、ユーザー エクスペリエンスを最適化。画面サイズに合わせて、フォルダー一覧、メール一覧、閲覧ウィンドウの表示と非表示をサーバー サイドで自動的にコントロール。ユーザーは画面サイズを意識することなく、いつでも同じ URL にアクセスするだけで、統一されたユーザー インターフェースを利用でき、IT 管理者も個別にマニュアルを用意する必要はありません。Outlook Web App を利用していれば、ローカル コンピューター上にデータを保持しないため、セキュアに閲覧できるのも特長です。



デバイスの画面サイズに合わせて表示を最適化され、タッチ操作に適したアイコン配置

### 素早くスムーズな操作性

Outlook を活用すれば、より詳細なメッセージの処理を行ったり、予定、仕事、および連絡先などの管理をしたりすることができます。

新しい Outlook では、画面を何度も切り替える必要がないよう、機能向上が行われています。たとえば、メールの返信は受信トレイ内での作成が可能で、予定や連絡先などはプレビュー機能で内容をすばやく確認。画面遷移を少なくし、メール本文の作成に注力できます。メールを起点としたスマートな情報処理をサポートします。

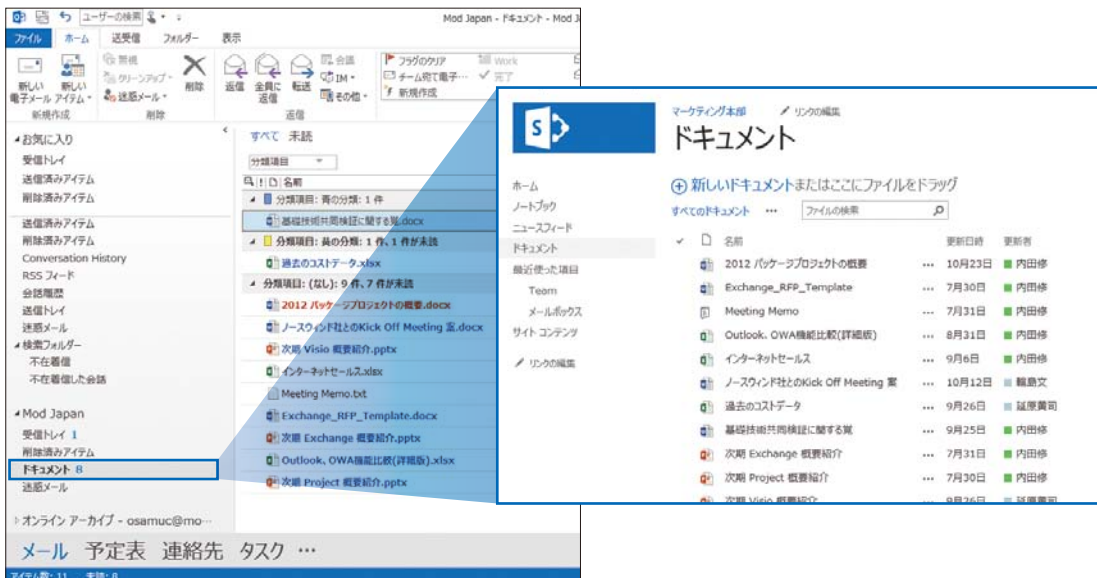
さらに、新規に搭載されたタッチ モードでは、リボンやフォルダーのサイズを調整し、閲覧ウィンドウにはよく使うコマンドを表示。タブレットをご利用の場合でも快適に操作が行えるよう、タッチに最適化されたユーザー インターフェースに簡単に切り替えます。



### チームでの共同作業を促進

Exchange を活用すると、さまざまな共同作業をスムーズに行えます。たとえば、チームの予定を把握するには、グループ スケジュールを確認。選択したメンバーの予定をすばやく確認でき、また出席者の予定が空いている候補日時が提案されるので、会議の設定もスムーズです。

SharePoint サイトを活用している場合には、メンバー全員でより効率的にメールとドキュメントを共有することも可能です。新しいサイト メールボックスはチーム サイトと連動し、ドキュメントは SharePoint に、メールは Exchange に一元的に保管。Outlook から単一のメールボックスとして活用でき、メンバー全員でのやり取りを一箇所にファイリングできます。サイト メールボックスは eDiscovery (電子情報開示) の対象とすることも可能。顧客からの情報開示要請や会計検査などがあった場合には、電子情報開示センターで対象の情報を素早く監査できます。



## 社内外のソーシャル ネットワークとの連携

新しい連絡先カードは、人を中心として社内外のソーシャル ネットワークの情報を一箇所に集約します。組織内の SharePoint によるエンタープライズ ソーシャルに加え、LinkedIn や Facebook などのパブリック向けソーシャルの情報もリンク。すべての連絡先情報を一箇所で管理できます。リンクをクリックすれば、ダイレクトにソーシャルのページに移動でき、その人に関する情報や活動内容を確認できます。

複数アカウントのメールやソーシャルから取得した連絡先情報はリンクすることも可能。同一人物が複数の連絡先として表示されることがなく、人を中心としてさまざまなメールやソーシャルの情報を包括的に管理できます。

次期 Exchange 紹介中

**Osamu Uchida**  
連絡可能 - 次の 8 時間は勤務時間外  
EXEC PROD MKTG MGR-M&O EXCH (JP-BMO Information--

連絡先 | メモ | 新着情報

予定表  
次の 8 時間は勤務時間外  
会議の設定

現在のタイムゾーン  
20:27  
東京 (標準時)

電子メールの送信先  
@microsoft.com

データの表示  
Outlook (連絡先)  
Facebook  
LinkedIn  
SharePoint

電子メールの送信先  
osamu.uchida@

職場に電話  
+8134535

連絡先をリンク...

事業所  
TOKYO-SHINAGAV

内田修さんのプロフィール

## 安全なアクセスの提供

Exchange では、メール用アプリに使用する複数の Web サービスのアカウント情報を統合管理することが可能です。各メール用アプリに、アカウント情報を何度も入力する必要がありません。

メール用アプリは Exchange サーバー上で管理されるため、管理者が利用できるアプリを制御することも可能です。

Outlook 予定表 連絡先 ニュースフィード SkyDrive サイト ... 管理者 内田修

オプション

インストール済みのアプリ

アプリを追加することも、Outlook Web App の機能性が向上できます。Outlook 用アプリを使用すると、メールボックスからより多くのことを実行したり表示したりできます。次の一覧は、インストールされているアプリを示しています。以前インストールしたアプリが不審になった場合は、無効にするが有効できます。Office ストアで Outlook 用のアプリを探します。

名前	プロバイダー	インストール実行権	有効
CustomerInfo	Fabrikam Corp	User	Yes
Bing Maps	Microsoft	Default	Yes
Action Items	Microsoft	Default	Yes

Bing Maps  
バージョン: 1.0  
作成者: Microsoft

Map addresses found in your email.

このアプリは IT 管理者がインストールしたもので、アンインストールできません。

無効にする

このアプリは「制限あり」のアプリです。このアプリは、Outlook Web App の一部の機能 (メッセージ内の電話番号、住所、日時、氏名など) にアクセスできます。このアプリは、サードパーティのサービスとのデータを連携する可能性があります。

## Outlook をカスタマイズ

新しい Office では、Office 用アプリの追加が可能になりました。一般公開を目的としたアプリは Office ストアで提供。企業向けアプリは、組織内の SharePoint によるアプリ カタログからも配信できます。

Outlook にはメール用アプリが用意されており、メールに記載された情報を基に自動的に Web アプリケーションを呼び出し、関連する情報をプレビュー画面に表示することが可能です。アプリはサーバー上で管理されるため、一度作成すると、Outlook だけでなく Outlook Web App から同じように利用することができます。

Apps for Outlook 2013

Featured Apps Apps for Excel Apps for Outlook Apps for Project Apps for SharePoint Apps for Word

Find it, map it, book it in Outlook  
Only in Office 365  
Try it for free

Build your own apps. Check out the Dev Center

Featured Apps

- LinkedIn for Outlook
- Hertz Car Rental (Beta)
- Groupby by Powerlist
- Twitter by Powerlist
- harmonie

## アプリケーションの切り替え時間を短縮

たとえば、外部 Web サービスと連携するアプリを利用している場合には、外部 Web アプリに連携するキーワードが含まれているメールを受信すると、メールから画面遷移することなく、関連情報を取得することができるので、より迅速にメールを処理することができます。

メール用アプリには、組織のビジネス アプリケーションと連携するアプリを開発することも可能。たとえば、ビジネス レポートの送信者は、レポート ページへのリンクなどのコンテキストを含めておけば、レポート自体を添付する必要がなく、安全かつ軽量のメッセージを送付できます。また、受信者は別のアプリケーションをわざわざ起動する必要もなく、Outlook や Outlook Web App 上でレポートを確認できます。

2012/09/25 (火) 19:40  
吉村徹也  
来週のセミナーについて

宛先 内田修

アイテム保持ポリシー Inbox Default (6 か月間)

このメッセージは 2012/10/05 16:00 に転送されました。

CustomerInfo

← Back 戻る 戻る 戻る 戻る

Customer Info Detail

取引先名 ファブリカム株式会社  
電話 03-4332-5300  
Webサイト http://www.microsoft.com  
住所 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー  
業種 コンピュータソフトウェアおよび関連製品の営業、マーケティング  
契約更新時期 2013/06/30  
備考 Exchange 15 向け。Agave の情報が公開されています。

Link to CRM

内田さん  
お疲れ様です。  
来週のセミナーについてですが、以下のお客様からの申し込みをいただいております。

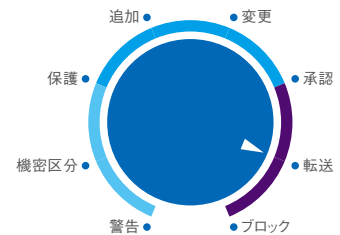
# セキュリティ/コンプライアンス対応

データの保存、保持、検索を行うための最も効果的なソリューションを提供

## 豊富なセキュリティ対策機能でコミュニケーションを多面的に保護

コミュニケーションのデータ量は年々増加しており、情報の管理作業をユーザーのスキルに依存するのは生産性に影響があるだけでなく、組織のセキュリティポリシーの維持も困難になります。

新しい Exchange では、ウイルス/スパム対策機能を、オンプレミスでもクラウドでも標準で搭載。オンプレミスはクラウドサービスと組み合わせることで、不要なメールや悪意のあるソフトウェアを組織で内外で防御可能。情報保護機能も強化されており、Rights Management サービス (RMS) との連携はもとより、内部コンプライアンスポリシーに基づいて機密情報などを含むメールの流れを制御する機能も提供します。また、コンプライアンス対応の必要がある部署はアーカイブを行い、専用画面から SharePoint や Skype for Business を含むアーカイブを監査。ウイルス・スパムの多重防御から、情報漏えい対策およびコンプライアンス対応まで、単一のソリューションで提供します。



## System Center と同じエンジンでマルウェア対策

新しい Exchange Server には、System Center Endpoint Protection と同等のマルウェア対策エンジンを標準搭載。Exchange Server の管理画面でウイルス対策を行えるようになりました。マルウェア対策ポリシーでは、検出した場合に、メッセージおよび添付ファイルの処理を設定できるほか、送信者や管理者への通知を行うことも可能。

さらに、クラウド サービスとして Forefront Protection for Exchange (FOPE) の後継である、Exchange Online Protection (EOP) を提供します。組織内サーバーの標準機能と合わせて、組織内外で複合的にマルウェアを防御できます。EOP では複数のマルウェア対策エンジンを用意しており、コスト効率良く、多重化されたマルウェア対策が行えます。

新しい Exchange Online は、EOP が標準搭載されているため、複数のマルウェア対策エンジンにて保護されています。



送信者や管理者へのマルウェアの検出を通知

## スパム メールをクラウド サービスでブロック

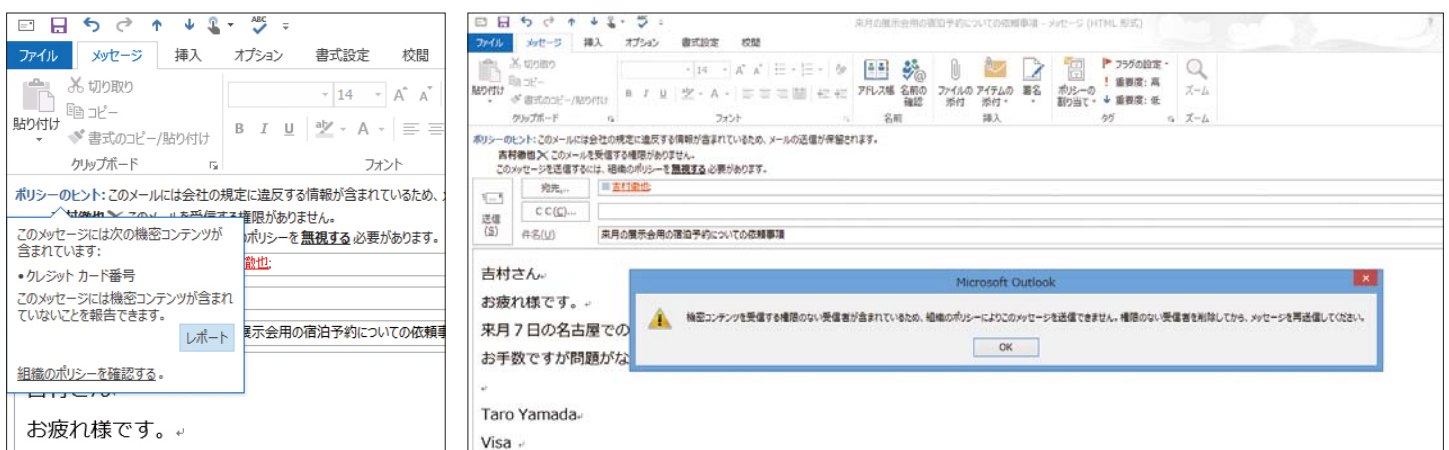
不要な広告やフィッシング詐欺サイトなどに誘導するスパムメールは、さまざまな手法を使用して送信されるため、単一のツールやプロセスですべてのスパムを排除することは困難です。Exchange では、スパムメールの検出精度を向上するために、多面的な対策が講じられています。Exchange では、送信者や受信者、Sender ID などの複数のフィルターで検出を行うとともに、過去の検出結果を累積的に活用。フィルターには言語や地域も設定でき、特定の地域から送信された特定の言語のメッセージだけを受信するように制限できます。

また、Exchange Online Protection (EOP) では、スパムメール対策機能も提供。オンプレミスと組み合わせて利用することにより、組織内外の検出エンジンとフィルターを利用した、多層防御が可能になります (新しい Exchange Online は、EOP が標準搭載されています)。

## コンプライアンス遵守を促進

情報漏えい対策ではユーザーへの注意喚起を徹底することも重要ですが、「うっかりミス」による誤送信を系統的に防止することも重要です。Exchange では Rights Management サービス (RMS) との連携により、メールの流れを制御。送信者および受信者双方の誤操作などによる情報漏えいを防止できます。

さらに、新しい Exchange では、データ損失防止 (DLP) 機能を提供。たとえば、クレジットカードの番号やソーシャルセキュリティ番号などの個人情報に対して、ポリシーを設定しておけば、それを含むメールの送信前に注意をうながしたり、強制的に送信をブロックしたりすることができます。ポリシーはメールだけでなく、添付ファイルにも適用が可能。組織全体のポリシーを策定し、必要に応じてポリシー違反を確認することもできます。



ポリシー違反はメール作成中にヒントとして通知

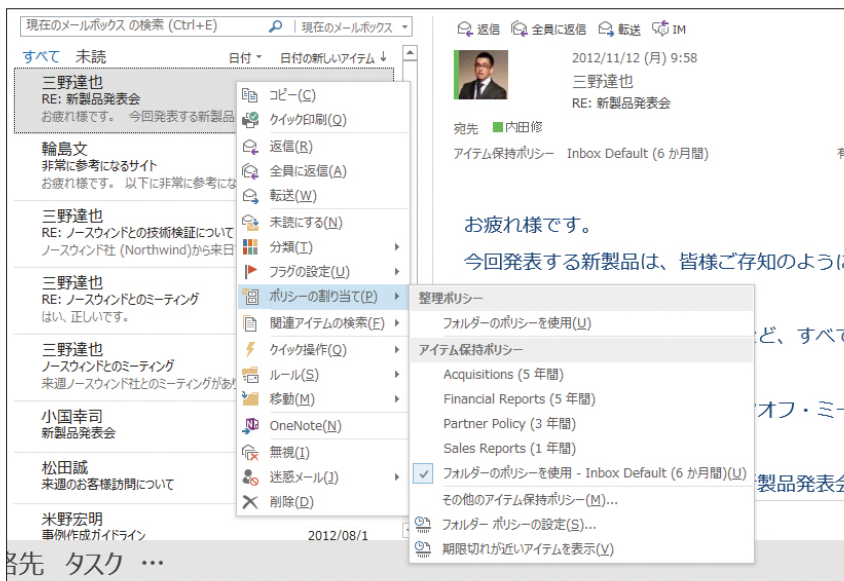


## 可視化された詳細なメール保持ポリシー

コンプライアンス遵守の証明や証拠開示要求に対応するためには、メールデータの保持期間を定義する保持ポリシーの設定も必要です。Exchange では、組織レベルで保持ポリシーを作成し、部署単位などで適用することが可能です。

ユーザーは Outlook や Outlook Web App の画面から、利用する保持ポリシーを選択可能。既定のフォルダーだけでなく、作成したフォルダーやアイテムごとにアイテム保持ポリシーを選択することができ、適切な保持期間を設定できます。

アイテム保持ポリシーを設定すると、ポリシーに関する情報をメールヒントとして表示。保持期限とどのようなポリシーが適用されているか、誰もが瞬時に把握できます。



組織のポリシーを確認しながら簡単に選択でき、設定されたポリシーはヒントとして表示

## 統合された eDiscovery リクエストの実行

米国連邦民事訴訟規則が改正され、e-mail などの電子データを含む証拠開示要求に応じる義務が定められました。いわゆる eDiscovery 法です。日本企業も米国の自社顧客、競合他社、現地社員から米国で民事訴訟を提起されればこの制度に基づき対応する必要があります。

Exchange では、情報開示要求があった場合にも即座に対応できるよう、eDiscovery 機能を提供します。法務担当者は、Exchange 管理者に依頼することなく、自分自身でアーカイブを含む複数のメールボックスに対して串刺し検索を実行。特定の条件で検索したメールを抽出して、専用のフォルダーに保管できます。

さらに Office 製品群全体で搭載されている eDiscovery 機能を利用すれば、メールボックスに加えて、Skype for Business によるインスタントメッセージング、SharePoint やファイルサーバーに格納されたドキュメントなども、統合検索可能。法務担当者は、検索結果をそのまま提出するだけで、情報開示要求に対応できます。



Exchange、Skype for Business、SharePoint などのアーカイブを統合検索できる、eDiscovery 機能

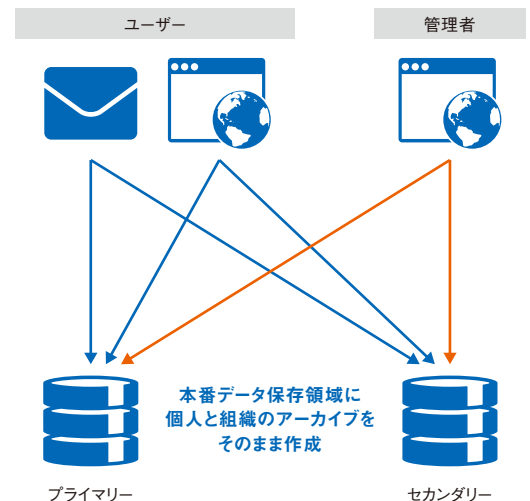
## インプレース アーカイブ

従来のアーカイブ機能では、メールボックスと異なるデータ保存領域を用意し、ジャーナル機能を使用してその領域にメール保管をしていました。この場合、複数の保存領域を用意する必要があります。個人用のアーカイブをローカルコンピュータに作成している場合には、セキュリティリスクもあります。

Exchange のインプレース アーカイブ機能は、Exchange 内で、アーカイブデータを保持します。組織レベルのアーカイブも、個人で行うアーカイブも同じ Exchange 上で行われるため、アーカイブごとに別システムを用意する必要がありません。利用頻度が高い比較的新しいメールはプライマリーに、それ以外のメールはセカンダリーに格納することで、効率よく領域を活用できます。

プライマリーからセカンダリーの移動は、ユーザーが手動で行うことも、保持ポリシーを利用して一定期間後に自動的に移動させることも可能です。

また、Exchange Online Archiving (EOA) を利用すれば、プライマリーはオンプレミスで、セカンダリーだけクラウド上に保管することも可能です。



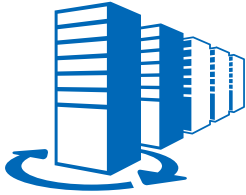
# 企業向け管理・統制と展開の選択肢

## ビジネス ニーズに応じた柔軟な運用管理

### クラウド、オンプレミス、ハイブリッド構成に柔軟に対応

Exchange なら、サーバーの社内設置 (オンプレミス) はもちろん、パートナー企業が提供するパートナー クラウド、マイクロソフトが提供するクラウドサービス Exchange Online から、ビジネス ニーズに合わせて、最適なものを選択できます。もちろん、オンプレミスとクラウド サービスを併用するハイブリッド構成も可能で、たとえば、本社はオンプレミスで運用し、事業所や海外支店はクラウド サービスを活用する、といった利用方法も選択できます。ハイブリッド構成でも、統一された管理ツールで、シームレスに運用することができます。

また、クラウド サービスとして、ウイルス/スパム対策の Exchange Online Protection (EOP)、アーカイブ機能の Exchange Online Archiving (EOA) が提供され、オンプレミスと組み合わせて利用できます。



#### 自社設置利用のメリット

- 他システムとの連携やカスタマイズによる利便性向上
- 監査対応など業界基準や組織ポリシーの対応強化
- 機密情報を含むデータの保管を自社で管理

#### ハイブリッドに適したシナリオ

- 正社員は自社設置を利用し、派遣社員はクラウドを利用
- 国内のユーザーは自社設置、海外のユーザーをクラウドを利用
- 機密情報を扱うユーザーは自社設置、それ以外のユーザーはクラウドを利用

#### クラウド利用のメリット

- 運用コスト、ソフトウェア/ハードウェア コストの低減
- 可用性向上と老朽化対策
- ユーザー数増減に柔軟に対応

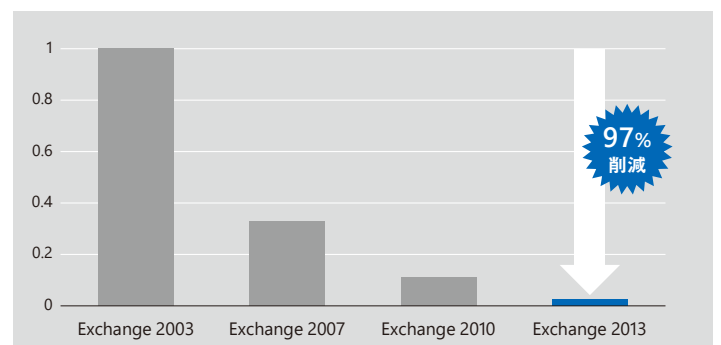
### 柔軟なハードウェアの選択肢

新しい Exchange Server では、I/O パフォーマンスを大幅に向上。マイクロソフトによるベンチマーク調査では、以前のバージョンと比べて約 50% 以上のディスク I/O を削減しています。レプリケーション機能も向上しているため、SATA (Serial Advanced Technology Attachment) の直接接続型ストレージ (DAS) や RAID (Redundant Arrays of Inexpensive Disks) レスのストレージにも対応。コストとパフォーマンスのバランスを考慮して、さまざまなハードウェア製品から最適なストレージを選択できます。

さらに、ハードウェア製品と仮想化テクノロジの技術革新により、ハードウェア集約も可能。新しい Exchange Server は、すべての役割サーバーが仮想化技術に完全に対応。サーバーを効率よく集約することで、ハードウェア コストと運用管理コストの削減にも貢献します。

データベース IOPS/メールボックス

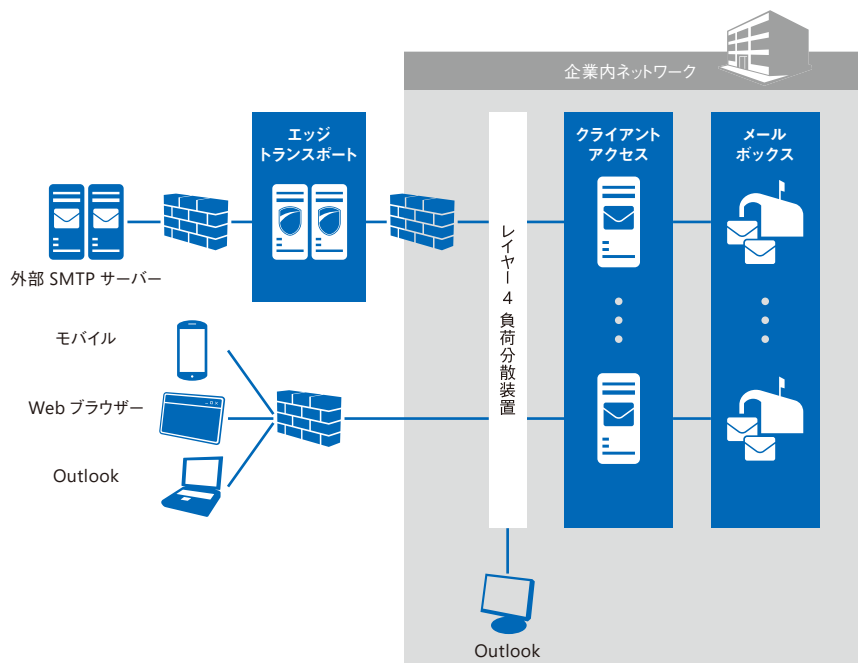
※ マイクロソフト社内ベンチマーク



### 2つのビルディングブロックによる シンプルな構成

新しい Exchange Server では、ハードウェア リソースの効率的な利用と容易なスケールアウトの実現を目指し、サーバーの役割を集約。クライアント アクセス サーバーとメールボックス サーバーの 2 種類によるシンプルな構成でメッセージング環境を構築できるようになりました。

新しい Exchange Server では、クライアント アクセス サーバーとメールボックス サーバーの役割が新しく定義され、疎結合になっているため、クライアント アクセス サーバーとメールボックス サーバーは、それぞれ任意の順序でアップグレードすることができます。トランスポート層 (レイヤー 4) による負荷分散も可能となり、また、すべてのサイトに 2 つの役割のサーバーを配置する必要はなく、かつネームスペースも最小 2 つまで削減されているため、より安価で組織の要件の応じた柔軟な構成が可能です。



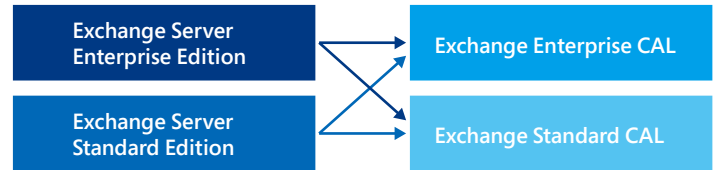




# エディションと提供形態

## Exchange Server のエディション

Exchange Server には、Enterprise Edition と Standard Edition が用意されており、作成できるデータベースの数異なります。クライアント アクセス ライセンス (CAL) には、Enterprise CAL と Standard CAL が用意されており、利用できる機能が異なります。サーバーと CAL のエディションをそれぞれ組み合わせて利用することも可能です。



## Exchange Server Standard Edition と Exchange Server Enterprise Edition の比較

	Standard Edition	Enterprise Edition
機能 作成できるデータベースの数	5	50

## ライセンスと提供形態

Microsoft Exchange は、お客様が最適な設置場所で、必要なテクノロジーとソリューションを選択できるよう、柔軟性の高い提供方法とライセンスを用意しています。オンプレミスは Exchange Server、クラウドは Exchange Online または Office 365 スイートの一部として提供されます。お客様は、固有のビジネス ニーズに合わせて、必要なライセンスを購入できるため、コストを節約しながらメッセージング ソリューションを構築することが可能です。



### Exchange Server

オンプレミスでは、Exchange Server のインスタンス\*を実行するために必要なサーバー ライセンスと、Exchange Server クライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。サーバー ライセンスは 1 ライセンスにつき、1 つのサーバー インスタンスを実行できます。CAL は、利用する機能や環境に応じてユーザーが購入ライセンスと種類を選択することができます。

CAL は、ユーザー単位またはデバイス単位の 2 種類、また利用する機能に応じて、Enterprise CAL と Standard CAL が提供されています。Enterprise CAL は、Standard CAL に追加購入することにより、ユニファイド メッセージングやセキュリティ、コンプライアンス機能などを利用することができます。

- \* インスタンス: ソフトウェアのセットアップまたはインストールの手順を実行することで、ソフトウェアのインスタンスを作成します。
- \*\* 以前のバージョンのライセンスを使用して、最新バージョンの Exchange Server のインスタンスを実行したりアクセスしたりすることはできません。



### Exchange Online

Exchange Online は Exchange Server の機能をマイクロソフトがホスティングするクラウド サービスとして提供するものです。Exchange Online が提供するサブスクリプション モデルにより、ビジネス利用に必要な機能を月額課金形式でご利用になれます。サブスクリプションは単体で購入するか、Office 365 スイート プランの一部として購入することができます。

Exchange Online メールボックスにアクセスするユーザーはそれぞれユーザー サブスクリプション ライセンス (USL) を取得する必要があります。

## 関連情報

- 導入事例 <http://www.microsoft.com/ja-jp/casestudies/search/default.aspx?prd=23>
- 製品サイト <http://www.microsoft.com/ja-jp/Exchange>
- 評価版ダウンロード <http://technet.microsoft.com/ja-JP/evalcenter/hh973395>
- 自習書シリーズ <http://technet.microsoft.com/ja-jp/exchange/jj853251>
- TechNet Library <http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb124558.aspx>

## システム要件

コンポーネント	要件
ネットワークおよびディレクトリ サーバー	
スキーマ マスター	既定では、スキーマ マスターはフォレスト内に最初にインストールされたドメイン コントローラーで実行されます。スキーマ マスターは、次のいずれかを実行している必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 Standard または Datacenter</li> <li>Windows Server 2008 R2 Standard または Enterprise</li> <li>Windows Server 2008 R2 Datacenter RTM またはそれ以降</li> <li>Windows Server 2008 Standard または Enterprise (32 bit もしくは 64 bit)</li> <li>Windows Server 2008 Datacenter RTM またはそれ以降</li> <li>Windows Server 2003 Standard Edition with Service Pack 2 (SP2) またはそれ以降 (32 bit もしくは 64 bit)</li> <li>Windows Server 2003 Enterprise Edition with SP2 またはそれ以降 (32 bit もしくは 64 bit)</li> </ul>
グローバル カタログ サーバー	Exchange 2013 をインストールする各 Active Directory サイトでは、次のいずれかを実行している少なくとも 1 つのグローバル カタログ サーバーが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 Standard または Datacenter</li> <li>Windows Server 2008 R2 Standard または Enterprise</li> <li>Windows Server 2008 R2 Datacenter RTM またはそれ以降</li> <li>Windows Server 2008 Standard または Enterprise (32 bit もしくは 64 bit)</li> <li>Windows Server 2008 Datacenter RTM またはそれ以降</li> <li>Windows Server 2003 Standard Edition with Service Pack 2 (SP2) またはそれ以降 (32 bit もしくは 64 bit)</li> <li>Windows Server 2003 Enterprise Edition with SP2 またはそれ以降 (32 bit もしくは 64 bit)</li> </ul>
ドメイン コントローラー	Exchange 2013 をインストールする各 Active Directory サイトでは、次のいずれかを実行している少なくとも 1 つの書き込み可能なドメイン コントローラーが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 Standard または Datacenter</li> <li>Windows Server 2008 R2 Standard または Enterprise SP1 もしくはそれ以降</li> <li>Windows Server 2008 R2 Datacenter RTM またはそれ以降</li> <li>Windows Server 2008 Standard または Enterprise SP1 もしくはそれ以降 (32 bit または 64 bit)</li> <li>Windows Server 2008 Datacenter RTM またはそれ以降</li> <li>Windows Server 2003 Standard Edition with Service Pack 2 (SP2) またはそれ以降 (32 bit もしくは 64 bit)</li> <li>Windows Server 2003 Enterprise Edition with SP2 またはそれ以降 (32 bit もしくは 64 bit)</li> </ul>
Active Directory フォレスト機能レベル	Exchange 2013 をインストールする Active Directory は、Windows Server 2003 フォレスト機能モード以上の機能モードで実行されている必要があります。

## Exchange Server 2013 を実行するサーバーの要件

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	次のいずれかを実行している必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 Standard または Datacenter</li> <li>Windows Server 2008 R2 Standard with SP1 または Enterprise with SP1</li> <li>Windows Server 2008 R2 Datacenter RTM またはそれ以降</li> </ul> <small>※ 「Server Coreインストール」環境はサポートされません。「フルインストール」環境でセットアップされている必要があります。</small>
CPU	以下のいずれかを搭載した x64 アーキテクチャ ベースのコンピュータ <ul style="list-style-type: none"> <li>Intel64 アーキテクチャ (以前の Intel EM64T) をサポートする Intel プロセッサを搭載する x64 アーキテクチャ ベースのコンピュータ</li> <li>AMD64 プラットフォームをサポートする AMD プロセッサ</li> </ul> <small>※ Intel Itanium IA64 プロセッサはサポートされていません。</small>
ファイル フォーマット	以下のパーティションが NTFS である必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>システム パーティション</li> <li>Exchange バイナリを格納するパーティション</li> <li>トランザクション ログ ファイルを含むパーティション</li> <li>データベース ファイルを含むパーティション</li> <li>Exchange 関連のその他のファイルを含むパーティション</li> </ul>
メモリ	インストールされている Exchange の機能に応じて異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メールボックス サーバー: 最低 8 GB</li> <li>クライアント アクセス サーバー: 最低 4 GB</li> <li>メールボックスとクライアント アクセス サーバーの共存インストール: 最低 8 GB</li> </ul>
ページング ファイル サイズ	ページ ファイルの最小および最大サイズ: 物理的な RAM の容量 + 10 MB <small>※ 推奨ページング ファイル サイズは、オペレーティング システムが予期せず停止した場合にダンプ ファイルを取得するために必要なメモリ サイズです。このファイルはサーバーのブート ボリュームに配置する必要があります。メモリ ダンプ データに使用できる構成オプションの詳細については Microsoft サポート技術情報の記事 254649 (<a href="http://support.microsoft.com/?kbid=254649">http://support.microsoft.com/?kbid=254649</a>) を参照してください。</small>
ハード ディスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>Exchange をインストールするドライブ上: 最小 30 GB のディスクの空き領域</li> <li>システム ドライブ: 最小 200 MB のディスクの空き領域</li> <li>メッセージ キュー データベースのあるエッジトランスポート サーバーまたはハブトランスポート サーバー: 最小 500 MB の空き領域</li> <li>インストールするユニファイド メッセージング (UM) の言語パックごとに、追加で 500 MB のディスクの空き領域</li> </ul>
ディスク装置	DVD-ROMドライブ
ディスプレイ	1024 x 768 以上の解像度

※ 管理ツールのみをインストールする場合、OS として上記に加えて Windows 8 (x64)、Windows 7 with SP1 (x64) 各エディションが利用可能です。  
 サーバーのスペックや台数に関しては、サイジング テストを行うか、マイクロソフト認定パートナーへご相談ください。最新の情報は TechNet (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/aa996719.aspx>) にてご確認ください。





---

●記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。●製品の仕様は、予告なく変更することがあります。予めご了承ください。  
©2015 Microsoft Corporation. All rights reserved.

製品に関するお問い合わせは、次のインフォメーションをご利用ください。

- インターネット ホームページ <http://www.microsoft.com/ja-jp/>
- マイクロソフト カスタマー インフォメーションセンター 0120-41-6755 (9:00~17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除きます)
- マイクロソフト ボリューム ライセンス コールセンター 0120-737-565 (9:00~17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除きます)

※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

ご購入に関するお問い合わせは、マイクロソフト認定パートナーへ。

- マイクロソフト認定パートナー <http://www.microsoft.com/ja-jp/partner/>

**Microsoft**

日本マイクロソフト株式会社  
〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー